

おやつのはじかん



ふるきをたずねて、
新しきを知る

皆さんこんにちは。住職の挨拶の中に「ロハス」という言葉が出てきました。

これは、私たち人間の生活を、環境が維持できる範囲でやっつけていこうという考えだそうですが、そのような社会など作ることができるのでしょうか。そのヒントとなる例が日本にありました。

さあ、今回のおやつ時間は、慶応大学の講師であります竹田恒泰氏の『日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか』という本を参考にご紹介します。

一七五〇年頃の江戸の人口は、百二十万人ともいわれ、その頃ヨーロッパ最大の都市のロンドンでさえも、人口は七〇万人ほどだったといわれています。

この大都市江戸は、江戸湾（東京湾）を取り囲むように沿岸が栄えました。その街を田畑が取り囲み、さらに田畑を森が囲む、四段構造になっていたのが特徴でした。

森は生命に必要なリンなどの養分の宝庫で、森の養分は河川によって運ばれ、田畑に養分を供給して野菜を育て人々の生活を潤し、江戸湾に栄養をもたらして海藻や魚介類を育てました。「森→田畑→街→海」と、森の養分は低い方へと潤いを与えていきました。

そしてこの街のすごいところはここからです。江戸の人々は、海から引き上げた栄養たっぷりの

海産物を食べて、ゴミや排泄をする。この生ゴミや人糞までもが貴重な肥料となるため、人々の手によって田畑に投入されます。そして、田畑の養分は、鳥や小動物によって森に運ばれ、「海→街→田畑→森」といった反対の養分の流れも成り立っていたのであります。これが江戸の循環構造型の都市といわれるゆえんであります。

欧米の考え方によれば、都市は森林と対立する概念なんだそうです。都市が栄えれば森が衰え、森を保とうとすると都市は栄えない。ところが、江戸の街は世界最大の都市にもかかわらず都市が栄えることで、豊かな森も育っていったのです。

近年世界の国々は深刻な環境問題に直面しています。今皆さまがこの文章を読んでいる間にも、北極の氷はどんどん溶けてしまっています。

大自然との調和を重んじてきた日本人の伝統的な価値観は、今むしろ外国の方々に高く評価され、取り入れられています。

和食や坐禅もそのうちのひとつとなっています。もしかしたら日本人の伝統的な価値観が世界を救うのかもしれない。

『大人になれば 次の時代への責任がある』

幸せのバトン
水も緑も そうさ空気も
かりてるだけだよ

人間のものじゃないよ』
（「僕にできること」 AKB48）

行事日程

三月十六日 タベの坐禅会

三月十八～二十四日 春のお彼岸

四月四日 役員会

四月六日 花まつり

(ブツダ生誕祭)

講演「お葬式のこころがまえ」

四月二十日 春季墓地清掃

(竹の子掘り)

タベの坐禅会

四月二十九日 護持会総会

(福引景品あり)

講演「正翁寺の石仏について」

五月中旬 春季草刈り

五月十八日 タベの坐禅会

六月二十二日 タベの坐禅会

七月六日 夏季墓地清掃

七月十二～十六日 七月お盆

七月二十日 タベの坐禅会

七月下旬 夏季草刈り

八月八日 大施食会 (おせがき)

八月下旬 タベの坐禅会

八月十二～十六日 八月お盆

九月二十～二十六日 秋のお彼岸

九月下旬 タベの坐禅会